

Title	ごあいさつ
Author(s)	千代, 賢治
Citation	癌と人. 2000, 27, p. 1-1
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/23844
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

ご あ い さ つ

理事長 千代賢治*

皆様にはますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素は当財団の運営に対しまして、格別のご支援を賜り誠にありがとうございます。

さて、いよいよ2000年代に入りました。新しいミレニアムを迎えたという一種の緊張感にも似た感情を抱くのは私だけではないと思います。

昨年もいろいろなことがございました。残念ながら、明るい話題よりは暗い話題のほうが多かったように思います。未だ立ち直りを見せない景気、日本では初めての臨界事故、宗教色を帯びた数々の事件、海の向こうでは阪神大震災以上の大地震が頻発し多くの尊い人命が失われました。

一方、政治面では時代の要請に応じた様々な施策が打ち出されました。その中で大きなもののひとつに介護保険の導入があげられます。多くの課題が整理されないまま成立してしまっただけは否めないところですが、将来に向かってその意義は十分に評価されてよいと考えます。小子化も相俟って、介護問題は今後加速度的に表面化、深刻化していくことが容易に想像できるからであります。いよいよスタートまで秒読み段階となりましたが、より良い制度としていくため全国民が関心をもって見守っていかなければならないと思います。

もちろん、我々は国の施策に期待するだけでなく、自助努力を惜しまないことが大切です。経済的な事はもちろんのこと、自分自身が「老い」にどう向き合っていくか若いうちから考えておくことも重要なことでありましょう。しかるべき状態になった時に、一方的に家族や地域をあてにするのではなく、可能な限りは自己責任において対処したいものです。

当然ながら、介護される側にならないために、日頃から健康には十分配慮し、自己管理をきちっとおこなっておくことが必要です。

そして、癌に関する知識の普及、あるいは学術助成という当財団の活動がそういった方々を支援していければ幸いです。

最後になりましたが、万人の健やかな健康の実現のため、今後とも皆様の力強いご支援とご協力を切にお願い申し上げます。

* (財)大阪癌研究会理事長 住友生命保険相互会社 名誉顧問